郷土摂津 いにしえ通信

第８２号　　平成１７年２月１日

発行　摂津市教育委員会　生涯学習部　生涯学習課
〒566－8555　摂津市三島一丁目1－1
TEL(06)6383－1111　(072)638－0007
ホームページアドレス　http://www.city.settsu.osaka.jp/

摂津市の石造文化財

道標（千里丘6丁目）　第11回

■街道とは　日本歴史地理用語辞典では「街道は道路のうち起点･終点がはっきりしている場合を言う」とあります。古代の律令制下では京都から全国に至る七道（東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海）の諸道が官道で起点･終点の駅家が明らかな街道と言えます。鎌倉幕府の成立期は京と鎌倉の往来のため、東海道がもっとも主要な街道でした。江戸時代には江戸を中心とする五街道である東海、中山、甲州、日光、奥州の諸道が主要な街道となります。

■亀岡街道について　市内の北西千里丘１～６丁目の吹田市との市境及び市場池に面する道が亀岡街道と呼ばれていました。亀岡街道は大阪と京都の亀岡を結ぶ街道で明治の中頃に命名されました。天神橋・長柄・中津川に架かる豊崎橋・柴島・菅原を経て亀岡に至る大道で、北摂や丹波の薪炭や寒天、各種農産物の市内への運搬などに利用されました。途中高槻へ分かれていたところから「高槻街道」とも呼ばれて賑わったといいます。大阪市内の高麗橋の東詰に起点となる里程の道標があります。

■亀岡街道道標（千里丘６丁目）　市場池オアシス広場南西に亀岡街道と小野原街道との分岐となる道標があります。石柱の頂部角切高７cm、一辺の幅 24cm、全高約 150cm とかなり大きいものと言えます。銘文はかなり詳しく街道名と村名が刻まれています。明治末頃になって道標が大阪府によって各地に建てられました。

【銘　文】
（右）左　吹田大阪
（正）右　亀岡街道
亀岡高槻東部
左　小野原街道
山田小野原勝尾寺
（裏）大阪府

道標（千里丘6丁目）写真

文化財講演会のお知らせ

文化財と震災

～震災をのりこえた博物館～

震災は人々だけでなく文化財にも災いをもたらします。阪神・淡路大震災から 10 年を迎えたこの機に文化財と人々の復興のドラマに光をあてます。

【と　き】平成 17 年３月 12 日（土）
午後１時 30 分～３時
【ところ】安威川公民館　講座室２
【講　師】神戸深江生活文化史料館
学芸員　望月　浩氏
【申込み】直接会場へ。参加費無料

神戸深江生活文化史料館　展示品は農具・漁具・生活用具などで昔の生活がしのばれるようなものが一杯つまった史料館です。阪急深江駅より南へ徒歩１分。
神戸市東灘区深江本町３丁目５－７
TEL078－453－4980

２月のふるさと摂津講座

味舌地区の歴史散策

【と　き】平成 17 年２月 16 日（水）
午後１時 00 分～４時（予定）
【ところ】味舌地区。集合は総合福祉会館ロビー
【講　師】ふるさと摂津案内人養成講座修了生
【コース】市役所⇒大岩藤八墓⇒味舌天満宮⇒味舌小学校⇒弥栄の樟⇒金剛院

石碑・顕彰札の紹介

摂津市域の歴史をたずねて

【所 在 地】摂津市安威川南町４地先

【設置年度】明治 13 年４月建立

神崎川改修饒足の碑　この石碑は神崎川付け替え改修工事が竣工した際、渡辺大阪府知事の功績をたたえる為に鳥飼八町村の人々が建てたものです。当時、鳥飼・味生地区は地勢が低いため排水が悪く、何度となく大きな水害に遭遇していました。明治 12 年神崎川改修工事が完成し迂回していた河道をまっすぐ西走するように改良が行われました。この地区が水害から免れて多大な恩恵を受けることになった喜びと感謝の気持ちが碑文に表されています。

石碑に刻まれた文章（読み下し文）日柳政愬撰・大庭景明書

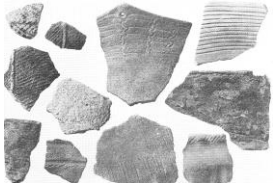
淀河之水汪悒として十余里、遭運に便じ灌漑に利す。沿岸の地頼りてもっていづくんぞ安んず。独り北岸嶋下郡に至りては、即ち地勢窪下にして、河底殆ど屋頭より高からんとす。故に河水時に田圃皆没す。其の鳥飼別府一津屋の数邨の若きは維新後、其の害にあうこと既に四回霖にあえば即ちむなしく居民荷澹して立つ。或は家も移し疆を出ず。府知事渡辺君之を憂い、或る時は其の窮耗を賑わし或は其の堤防を修む。またただ河水湾回し、北岸常に其の衝に当る、実に天然の勢いかんぞかならず。ここにおいて断然水勢を変更する議を下し、神崎川かたわらに於て新に一河をさくす。其の道極直にして且つ深し。不日竣功し旧河の水奔来してここに注ぐ。其の勢の快なること決するがごとし。時に明治十二年七月也。嗚呼往年の水害一挙にそく減し。また沈そう懸釜のおそれ有る無し昔西門豹、水を利して民皆饒足す。（略）いたく後世に流し誰かよく其の法式を改めん（略）此の偉業あに一言もなかるべし。よってせんれつを顧ずして誌す。

石碑写真

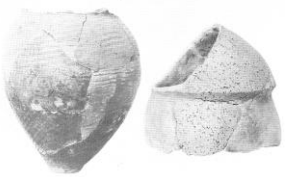
第45回 埋もれた摂津市の歴史

淀川から土器が出土・柱本遺跡の調査

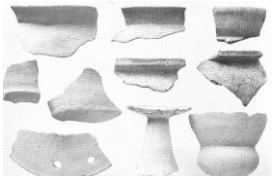
柱本遺跡は淀川低水路整備事業の進展にともない発見された遺跡です。工事中、発見された遺物や、このときの調査で検出された遺物には、縄文、弥生、古墳、奈良時代をはじめ平安～室町時代を経て江戸時代に至る各時期の遺物があり極めて長期間、集落が形成されていた可能性を残します。遺物も縄文から江戸時代に至る土器や陶磁器をはじめ数多い中国陶磁器、下駄、櫛などの木製品、直刀などの鉄製品、人骨、獣骨などが検出されており質的にも非常にすぐれた集落跡であることを示していると当時の調査報告書で評価されています。また北摂地区では比較的縄文時代の集落が少ないという現状からも遺跡の重要性を指摘されています。来月号では淀川河川敷という低位な位置に立地する本遺跡の性格について記述します。（つづく）



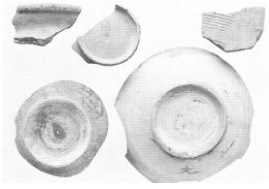
縄文土器



弥生土器



古墳時代土師器



中世陶器